

12月の定例作業は12月14日(土)9時からグリーントリム公園に集合

花壇植付け(パンジーなど)します。最後に、作業道具の整備をします。
雨天のときは翌週土曜日12/21(土)とします。
平日作業は年末に付き中止とします。 よいお年をお迎えください。



1. 11月産業祭では、のこぎり体験に人だかり

11/3(日)富士見公園で「はむら 市民と産業のまつり 2024」(以下略称して「産業祭」と記します)が開かれました。美原里山保存会は稲荷緑地の会と、環境政策課のテントの半分ずつを受け持ち、展示と体験のイベントとしました。会員参加者は12名。前日は雨でしたが、この日11/3(日)は晴天でした。

展示は、ポスター、写真、薪、まな板、丸太、板など。体験は、のこぎりで丸太を切る「のこぎり体験」。丸太は約8センチ径のヒノキ、美原里山の支障木を伐採したものです。厚さは約2センチが標準だがお好みで厚い場合もありました。切片の周囲のヒノキの皮は、私たちがサンダーやヤスリ、サンドペーパーで削り、体験者にあげました。体験者は子どもらで、未就学児から小学生が多く、中学生や大人もいました。どちらかと言うと、女の子の挑戦が多かった。家庭でのこぎりを使うことが少ないので、子どもには初体験で、親もジジババさんも喜んでいました。子どもらは達成感があり全員笑顔でした。もらった切片はコースターになるし、ヒノキの香りを嗅いで「ヒノキ風呂にしよう」と話し、木の年輪模様をみて「10年は経っているね」、節の模様が面白く、「木の枝が出たところだよ」と説明すると「えー」と驚いていました。

体験希望の子らがひっきりなしに来るので、細いコースター用のヒノキがなくなり、15センチ径の皮剥ぎ済みのヒノキ丸太を持ち出しました。体験者の体力を考えて予めの切り込み量を調整しました。「これは鍋敷きになるね。」

体験者だけでなくテントや体験を覗き込んだ人々も含めて来場者は約440人にのぼりました。そして、緑の募金は6,658円になりました。会員の参加が多かったので、余裕をもって体験サービスを提供できました。

丸太を押さえて指導員



のこぎりに夢中の親子



丸太に座って押さえて談笑

2. 11月定例作業日は、草取り、刈り払いなど



入口広場と花壇は草茫茫



Before → After

11/9（土）快晴、多少寒い。参加者10名。

来週の日曜日は町内会のフェスティバルなので、入口広場やその周囲の植え込みの雑草を抜き採りツタを取り払いました。また、三角山は駐輪場になるので雑草の刈払いをしました。



三角山 駐輪場の予定

Before → After

3. 美原ふれあいフェス 2024

11/17(日)は快晴、「美原ふれあいフェスティバル」が里山で開催されました。

グリーントリム公園の入口広場は本部等、第1広場は出店、第2広場はゲームなど、駐車場は警視庁音楽隊演奏、三角山は駐輪場となりました。美原里山保存会の会員参加者は約27名ですが、実行委員会の美原町内会、美原長寿会、美原ふれあいの会と重複会員であり、他の会員として活動した人多数も含まれています。



美原ふれあいフェス第2広場

朝8時半に実行委員は集合

し、1日の活動を確認し、それぞれ準備作業に入りました。美原里山保存会は実行委員会の一員であり、第2広場ゲームコーナーの担当です。輪投げ、囲碁将棋、モルック、射的、金魚すくいなどのゲームが行われました。高所展望クレーンも設置され、多くの観客がやってきました。モルックはスポーツ振興委員会のメンバーが運営をしてくれました。長寿会担当の輪投げには多くの子ども達が参加し景品を持って帰りました。

昼過ぎに駐車場で警視庁の音楽隊が演奏し、会場は盛り上がりました。午後3時半頃フェスは終わり、後片づけしました。

もののあわれ

四季の中で、「もののあわれ」を感じさせるのに最もふさわしい季節は秋でしょう。

「もののあわれ」は、単なる「あわれ」とは異なります。日本文化の1つとも言われていますが、日本だけでなく疎らだが世界中にある普遍的な感性/感情です。

かいつまんで言うと、「もののあわれ」は、人間の努力や願いにもかかわらず、運命や社会の成行き、自然の摂理、背信などによって、報われない結果となったことを感じ取り、また思い遣ることです。“秋の紅葉の華麗な美しさが、落葉の裸木になる様（さま）”が正に「もののあわれ」に呼応しています。

- ・紅葉散る 山は寂しさ 増しにけり 与謝蕪村
- ・散るをいとわぬ紅葉こそ 美し 作者不詳
- ・木の葉散る 秋を惜しむも またたのし 松尾芭蕉
- ・すべての美しいものは、それが失われることによってさらに美しくなる。

Edgar Allan Poe (アメリカ小説家/詩人)